

心理学的アプローチによるイノベーション創出とベンチャー起業

Psychological approach for activation of innovation and entrepreneurship

阪大工 森勇介

Osaka Univ., Graduate School of Engineering, Yusuke Mori

E-mail: mori.yusuke@eei.eng.osaka-u.ac.jp

私は 2005 年 7 月 1 日にレーザーを活用したタンパク質結晶化技術で創薬支援ベンチャー(株)創晶を起業いたしました。その後、2013 年に(株)創晶應心、2016 年に(株)創晶超光、2020 年に(株)teamGaN を起業しています。私が起業したベンチャー企業の中でも、(株)創晶、(株)創晶超光、及び(株)teamGaN は結晶技術を生業としていますが、(株)創晶應心はテクノロジーベンチャーではなく心理学に関わるベンチャーです。(株)創晶應心を設立するに至ったのは、私が大阪大学で実施していました心理学で人を元気にする手法が、イノベーション創出からプロジェクトの活性化やベンチャー起業には極めて有効であることが分かったからです。

心理学が役に立つ事例をご紹介します。ピンチの時に自分でも考えられない力を発揮することを火事場の馬鹿力と言います。この火事場の馬鹿力はイノベーション創出やベンチャー起業にはとても重要な要素になりますが、自分には難しいことは出来ない、というような思い込みがあると、ピンチの時に諦めてしまって火事場の馬鹿力が発揮できなくなってしまう。その一例ですが、私は父親にきつく怒られて育ったので、自分に自信がありませんでした。それで、ピンチに遭遇したら、「失敗したら怒られる」、「自分は能力が無いのでどうせ失敗する」、というようなマイナスイメージが出てしまって、困難を解決できないことが多かったのですが、心理学なカウンセリングを受けると、そのような思い込みが解消でき、様々な困難を克服することができるようになりました。

本講演では、私の大学での研究開発、心理学との出会いからベンチャー起業までの経験、並びに起業したからこそ学べた事をお伝えできればと思います。私の拙い経験が少しでもご参考になれば嬉しく存じます。